

# 一保健所管内の小・中学生を対象とした喫煙行動と 関連要因に関する大規模調査研究（第3報）

—小・中学生の喫煙行動と保護者による養育状況との関連—

フジタ マコト  
藤田 信\*

**目的** 小・中学生の喫煙行動と両親による養育状況との関連性を明らかにして、小・中学生の喫煙の解消に資することを目的とする。

**方法** 静岡県A保健所管内の小学校35校、2,428名、中学校17校、2,316名に対して、無記名自記式の調査票によるアンケート調査を実施した。

**結果** 家族・友人からの喫煙の勧誘について、小学生では「兄姉」「友人」から喫煙を勧誘された者の喫煙経験率は36.8%、43.9%と比較的高く、「兄姉」から勧誘された者は現在喫煙率も10.5%と比較的高い傾向で、現在喫煙に兄姉の影響が大きかった。中学生では、「父母」「兄姉」「友人」から勧誘された者の喫煙経験率は42.3%、38.6%、35.5%、現在喫煙率はそれぞれ11.5%、11.3%、12.4%と比較的高く、現在喫煙への父母、兄姉、友人の影響はほぼ同等であった。同居する家族の禁煙者について、小学生では例数が少なくコメントできないが、中学生では「祖父」「父」「姉」が禁煙した者の前喫煙率は7.6%、7.4%、9.1%、現在喫煙率はそれぞれ2.3%、1.9%、なしと低い傾向であった。喫煙に対する両親のしつけ方と喫煙行動の関係について、中学生で統計上有意な関係が認められ（ $p=0.001$ ）、喫煙経験の割合は、「身体に悪い」21.4%、「子どもは吸うな」10.3%、「家の中で吸いなさい」100.0%、「何も言わない」31.6%、「知らない」18.1%であった。子どもに対する両親の一般的なしつけ方と喫煙行動について、小学生が喫煙経験、中学生が喫煙経験・現在喫煙に関して統計上に有意な関係が認められ、喫煙経験率と現在喫煙率が「叱る」から「怒鳴る」「殴る」になるにしたがって高くなり、「何もしない」は「怒鳴る」と同程度であった。両親の授業参観の出席と喫煙行動について、小学生が喫煙経験、中学生が喫煙経験・現在喫煙に関して統計上に有意な関係が認められ、小学生と中学生ともに「いつも来る」から「時々来ない」「来ないことが多い」「来ない」になるにしたがって前喫煙率と現在喫煙率が高くなった。「子ども部屋の有無」と喫煙行動について小学生と中学生ともに「共有」に比べて「なし」「個室」の喫煙経験率が高い傾向であった。子ども部屋の施設について小学生と中学生ともに喫煙経験率と現在喫煙率に有意な変化はなかった。

**考察** 本研究の結果により、小・中学生の喫煙行動は同居家族と友人に大きく影響され、両親の喫煙その他に対するしつけ方が小・中学生の喫煙行動に関係していたことから、その喫煙防止のためには、家族等の周囲の関係者を含めて小学生から中学生、高校生までの一環した喫煙防止教育の実施が必要であるとともに、両親に対して小・中学生の喫煙防止に関して指導助言することが重要と考えられる。また、地域や企業を含めた社会全体の理解と支援の下に、両親が授業参観などの学校行事に参加することにより、学校教育、ひいては小・中学生本人への関心の深さを示す必要があると考えられる。

**キーワード** 小・中学生、喫煙行動、両親（保護者）、喫煙の勧誘、しつけ方、授業参観

\* 静岡県東部保健所技監（元静岡県志太榛原保健所長）

## はじめに

わが国の喫煙率は、国の調査ばかりでなく、日本たばこ産業(株)の調査でも、平成19年に成人全体が12年連続過去最低を更新し(26.0%)、男性が16年連続低下(40.2%)したが、女性が2年ぶりに上昇しており(12.7%)、若年女性の喫煙率の上昇と、未成年の喫煙の低年齢化が問題として取り上げられている。厚生労働省は、「健康日本21」における喫煙対策として、喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及、未成年の喫煙をなくす、公共の場や職場での分煙の徹底、および効果の高い分煙についての知識の普及、禁煙・節煙を希望する者に対する禁煙支援プログラムを全ての市町村で受けられるようにする、を4つの柱にして、総合的なたばこ対策を推進することとしており、未成年の喫煙の解消は重要な課題の1つに挙げられている。

これら喫煙対策が推進される中で、著者は、喫煙対策の中でも禁煙・分煙ではなく喫煙防止(以下、防煙)について、また、その対象を小・中学生に的を絞った対策の企画立案に資することを目的に、平成12~14年度の3カ年計画で、教育機関・関係者の協力の下に調査研究事業(以下、本研究事業)を行った<sup>1)-3)</sup>。

本研究では、これらのうち、小・中学生の喫煙行動と保護者による養育状況に関連した項目の結果についてまとめと考察を行う。本研究のように、調査結果に基づいて両親による養育状

況と小・中学生の喫煙状況との関連を明らかにしたものは国内ではまれで、小・中学生の防煙のみならず家庭教育の見直しに資するものと考える。

## 方法

### (1) 対象

静岡県A保健所管内の小学校35校(管内総数69校)における第4・5・6学年の82クラス(1校について奇数または偶数クラスのみ)の2,428名、中学校17校(同34校)における全学年の71クラス(1校について奇数または偶数クラスのみ)の2,316名とした。

### (2) 調査方法

平成15年1月7日から2月17日までの間、無記名自記式の調査票によって実施した。調査票は、各地区校長会と調整を行った後、各学校長あての協力依頼文を同封して郵送し、回答者本人あてにも依頼文を付記した。なお、調査時の小・中学生の在籍数と回答者数も回答するよう学校長あて依頼した。設問内容は表1に示す。実施場所は学校の教室とし、担当する教職員は回答用紙の配布後は教室から出るか、教室にあって見回らないなどの実施要領を文書で周知した。設問内容等の調査方法の詳細は、本研究事業の報告書を参照されたい。

### (3) 集計と分析

集計は、各設問の不明回答を除いたものについて行い、結果は $\chi^2$ 検定により有意差の有無を分析した。ただし、小学生の喫煙経験と現在喫煙の人数が少ないため、一部で小学生と中学生の分析方法が異なる。

なお、「非喫煙者」は今までタバコを吸ったことのない者、「前

表1 調査票の設問内容

(1) 年齢, 性別, 学年	16 禁煙外来に希望する担当医
(2) 初喫煙の時期	17 禁煙外来受診の希望日時(複数回答)
(3) 初喫煙の動機(複数回答)	18 禁煙外来を安心して受診できる条件(複数回答)
(4) 初喫煙時の感想・症状(複数回答)	19 禁煙外来の匿名性
(5) 初喫煙時の喫煙継続意思	20 両親への喫煙と禁煙の告知
(6) 喫煙に対する両親のしつけ方	21 受動喫煙場所(複数回答)
(7) 喫煙場所(複数回答)	22 同居家族・友人の喫煙者(複数回答)
(8) 1日当たりの喫煙本数, 1カ月の喫煙日数	23 家族・友人からの喫煙勧誘(複数回答)
(9) タバコの入手方法(複数回答)	24 主流煙と副流煙の知識
00 喫煙の習慣性	25 喫煙による健康影響の知識(複数回答)
01 20歳時の喫煙予想	26 朝食の摂取状況
02 過去の禁煙企図の有無	27 夕飯を一緒に食べる家族
03 現在の禁煙意思の程度	28 両親の学校行事の参加状況
04 禁煙企図時の相談相手(複数回答)	29 両親の一般的なしつけ方
05 禁煙外来の付き添い(複数回答)	30 その他

喫煙者」は今までタバコを吸ったことはあるが今はやめて吸っていない者、「時々喫煙者」は現在時々タバコを吸っている者、「習慣的喫煙者」は現在習慣的にタバコを吸っている者であり、「現在喫煙者」は時々喫煙者と習慣的喫煙者を合わせたもの、「喫煙経験者」は前喫煙者と現在喫煙者を合わせたものとする。

(4) 倫理的配慮

本研究事業は、国の「疫学研究に関する倫理指針（旧指針）」の告示（平成14年6月17日）前から実施したものであるが、以下のように倫理面で配慮した。調査票の設問内容と表現は、A保健所管内の主な市町教育長、各地区校長会役員、保健担当教諭、保健主事・養護教諭、小・中学生の保護者のそれぞれの代表と調整した。調査票には、調査の主旨と個別回答内容の秘密厳守を付記した。回答方法は無記名自記式で、筆跡による個人の特定が困難になるように選択肢の番号を記入することを基本とした。回

表2 喫煙経験者の内訳

		(単位 名)			
		総数	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生	総数	101	94	6	1
	男子	64	59	4	1
	女子	37	35	2	-
中学生	総数	219	162	32	25
	男子	148	107	23	18
	女子	71	55	9	7

注 1) 性別不明、学年不明は除く。  
2) 文献4)から引用

表3 家族・友人からの喫煙の勧誘と現在の喫煙状況（複数回答）

	非喫煙	喫煙経験				
		総数	前喫煙	現在喫煙		
				総数	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生 (n=2,413)						
祖父・祖母	27 (79.4)	7 (20.6)	7 (20.6)	-( -)	-( -)	-( -)
父母	52 (82.5)	11 (17.5)	11 (17.5)	-( -)	-( -)	-( -)
兄弟	12 (63.2)	7 (36.8)	5 (26.3)	2 (10.5)	1 (5.3)	1 (5.3)
友人	23 (56.1)	18 (43.9)	17 (41.5)	1 (2.4)	1 (2.4)	-( -)
その他	554 (93.9)	36 (6.1)	31 (5.3)	5 (0.8)	5 (0.8)	-( -)
中学生 (n=2,307)						
祖父・祖母	9 (75.0)	3 (25.0)	2 (16.7)	1 (8.3)	-( -)	1 (8.3)
父母	15 (57.7)	11 (42.3)	8 (30.8)	3 (11.5)	1 (3.8)	2 (7.7)
兄弟	27 (61.4)	17 (38.6)	12 (27.3)	5 (11.3)	3 (6.8)	2 (4.5)
友人	187 (64.5)	103 (35.5)	67 (23.1)	36 (12.4)	23 (7.9)	13 (4.5)
その他	416 (87.8)	58 (12.2)	50 (10.5)	8 (1.7)	3 (0.6)	5 (1.1)

答調査票は、あらかじめ配布した封筒に回答者が封入し、それをクラス単位・学校単位にまとめ、郵送により回収した。

結 果

(1) 回答者の概要

調査票回収数は、小学生2,428名の全員、中学生2,316名中2,315名（回収率99.96%）で、このうち喫煙経験者は、小学生男子64名、女子37名、中学生男子148名、女子71名であった<sup>4)</sup>（表2）。

(2) 喫煙の勧誘（複数回答）

喫煙の勧誘について、小学生男子で「祖父・祖母」と回答した者の割合は4.7%、「父母」9.1%、「兄弟」3.1%、「友人」7.8%、「その他」76.9%、同様に、小学生女子は、それぞれ4.9%、8.0%、2.0%、3.2%、84.8%であった。中学生男子で「祖父・祖母」と回答した者の割合は1.1%、「父母」4.1%、「兄弟」5.3%、「友人」39.3%、「その他」55.6%、同様に、中学生女子は、それぞれ2.1%、2.1%、5.7%、32.6%、65.0%であった。

表3に家族・友人からの喫煙の勧誘と現在の喫煙状況との関係を示す。

(3) 同居家族の禁煙者（複数回答）

同居家族の禁煙者について、小学生男子で「祖父」と回答した者の割合は27.9%、「祖母」2.7%、「父」36.2%、「母」6.7%、「兄」1.7%、「姉」0.2%、「その他」32.2%、小学生女子は、同様に、それぞれ28.4%、2.0%、33.3%、9.5%、0.7%、0.2%、32.8%であった。中学生男子で「祖父」と回答した者の割合は28.2%、「祖母」2.1%、「父」36.3%、「母」7.4%、「兄」2.5%、「姉」0.9%、「その他」31.7%、中学生女子は、同様に、それぞれ25.5%、2.3%、

45.3%，9.6%，2.1%，1.1%，24.4%であった。

表4に同居家族の禁煙者と現在の喫煙状況との関係を示す。

(4) 喫煙に対する両親のしつけ方  
喫煙に対する両親のしつけ方について、小学生男子で「身体に悪い」と回答した者の割合は27.9%，「子どもは吸うな」14.7%，「家の中で吸いなさい」2.9%，「何も言わない」10.3%，吸っていることを「知らない」25.0%，「その他」19.1%，小学生女子は、同様に、それぞれ18.4%，26.3%，なし，18.4%，15.8%，21.5%であった。中学生男子で「身体に悪い」と回答した者の割合は20.8%，「子どもは吸うな」12.8%，「家の中で吸いなさい」8.7%，「何も言わない」9.4%，「知らない」35.6%，「その他」12.8%，中学生女子は、同様に、それぞれ15.9%，15.9%，4.3%，8.7%，44.9%，10.1%であった。

表5に喫煙に対する両親のしつけ方と現在の喫煙状況との関係を示す。

(5) 子どもに対する両親の一般的なしつけ方  
子どもに対する両親の一般的なしつけ方について、小学生男子で「叱る」と回答した者の割合は54.1%，「怒鳴る」26.8%，「殴る」4.1%，「何もしない」7.1%，「その他」8.0%，同様に、小学生女子は、それぞれ58.6%，24.4%，2.1%，6.1%，8.9%であった。中学生男子で「叱る」と回答した者の割合は60.7%，「怒鳴る」17.7%，「殴る」4.1%，「何もしない」10.9%，「その他」6.7%，同様に、中学生女子は、それぞれ63.2%，18.5%，2.7%，8.0%，7.6%であった。

表6に子どもに対する両親の一般的なしつけ方と現在の喫煙状況との関係を示す。

表4 同居家族の禁煙者と現在の喫煙状況（複数回答）

(単位 名, ( )内%)

	非喫煙	喫煙経験				
		総数	前喫煙	現在喫煙		
				総数	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生 (n=2,413)						
祖父	327(96.2)	13(3.8)	13(3.8)	-( -)	-( -)	-( -)
祖母	27(96.4)	1(3.6)	1(3.6)	-( -)	-( -)	-( -)
父母	405(95.3)	10(4.7)	10(4.7)	-( -)	-( -)	-( -)
兄弟姉	90(92.8)	7(7.2)	7(7.2)	-( -)	-( -)	-( -)
その他	12(85.7)	2(14.3)	2(14.3)	-( -)	-( -)	-( -)
中学生 (n=2,307)						
祖父	2(100.0)	-( -)	-( -)	-( -)	-( -)	-( -)
祖母	359(91.3)	34(8.7)	30(7.6)	4(1.0)	4(1.0)	-( -)
父母	274(90.1)	30(9.9)	23(7.6)	7(2.3)	3(1.0)	4(1.3)
兄弟姉	22(84.6)	4(15.4)	3(11.5)	1(3.8)	-( -)	1(3.8)
その他	419(90.7)	43(9.3)	34(7.4)	9(1.9)	3(0.6)	6(1.3)
祖父	81(85.3)	14(14.7)	10(10.5)	4(4.3)	3(3.2)	1(1.1)
祖母	21(80.8)	5(19.2)	4(15.4)	1(3.8)	1(3.8)	-( -)
父母	10(90.9)	1(9.1)	1(9.1)	-( -)	-( -)	-( -)
兄弟姉	274(86.4)	43(13.6)	34(10.7)	9(2.9)	5(1.6)	4(1.3)
その他						

表5 喫煙に対する両親のしつけ方と現在の喫煙状況

(単位 名, ( )内%)

	前喫煙	現在喫煙		
		総数	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生 (n=101)				
身体に悪い	25(96.2)	1(3.8)	1(3.8)	-( -)
子どもは吸うな	17(94.4)	1(5.6)	1(5.6)	-( -)
家の中で吸いなさい	1(50.0)	1(50.0)	1(50.0)	-( -)
何も言わない	13(100.0)	-( -)	-( -)	-( -)
知らない	22(95.7)	1(4.3)	1(4.3)	-( -)
その他	15(83.3)	3(16.7)	2(11.1)	1(5.6)
中学生 (n=219)				
身体に悪い <sup>1)</sup>	33(78.6)	9(21.4)	4(9.5)	5(11.9)
子どもは吸うな <sup>1)</sup>	26(89.7)	3(10.3)	3(10.3)	-( -)
家の中で吸いなさい <sup>1)</sup>	-( -)	16(100.0)	6(37.5)	10(62.5)
何も言わない <sup>1)</sup>	13(68.4)	6(31.6)	2(10.5)	4(21.1)
知らない <sup>1)</sup>	68(81.9)	15(18.1)	11(13.3)	4(4.8)
その他 <sup>1)</sup>	18(72.0)	7(28.0)	6(24.0)	1(4.0)

注 1) 前喫煙 v.s. 現在喫煙, p = 0.001

(6) 両親の授業参観の出席

両親の授業参観の出席について、小学生男子で「いつも来る」と回答した者の割合は73.3%，「時々来ない」18.6%，「来ないこと多い」6.1%，「来ない」1.9%，同様に、小学生女子はそれぞれ73.1%，19.7%，6.4%，0.8%であった。中学生男子で「いつも来る」は56.0%，「時々来ない」28.2%，「来ないこと多い」12.6%，「来ない」3.2%，同様に、中学生女子は、それぞれ49.4%，29.9%，16.6%，4.0%であった。

表7に両親の授業参観の出席と現在の喫煙状況との関係を示す。

(7) 子ども部屋の有無と施錠

子ども部屋の有無について、小学生男子で「なし」は22.4%、兄弟姉妹と「共有」39.9%、「個室」37.7%、同様に、小学生女子は15.6%、39.9%、44.5%であった。中学生男子で「な

し」は9.2%、「共有」19.9%、「個室」70.9%、同様に、中学生女子は5.7%、23.5%、70.9%であった。

表8に子ども部屋の有無と現在の喫煙状況との関係を示す。

表6 両親の一般的なしつけ方と現在の喫煙状況

(単位 名, ( )内%)

	非喫煙	喫煙経験				
		総数	前喫煙	現在喫煙		
				総数	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生 (n = 2,413)						
叱る <sup>1)</sup>	1 293 (96.6)	45 ( 3.4)	41 ( 3.1)	4 (0.3)	4 (0.3)	-( -)
怒鳴る <sup>1)</sup>	581 (94.9)	31 ( 5.1)	30 ( 4.9)	1 (0.2)	-( -)	1 (0.2)
殴る <sup>1)</sup>	67 (91.8)	6 ( 8.2)	4 ( 5.5)	2 (2.7)	2 (2.7)	-( -)
何もしない <sup>1)</sup>	149 (94.3)	9 ( 5.7)	9 ( 5.7)	-( -)	-( -)	-( -)
その他 <sup>1)</sup>	196 (96.1)	8 ( 3.9)	8 ( 3.9)	-( -)	-( -)	-( -)
中学生 (n = 2,307)						
叱る <sup>1)2)</sup>	1 318 (93.6)	90 ( 6.4)	71 ( 5.0)	19 (1.4)	11 (0.8)	8 (0.6)
怒鳴る <sup>1)2)</sup>	359 (87.6)	51 (12.4)	36 ( 8.8)	15 (3.6)	10 (2.4)	5 (1.2)
殴る <sup>1)2)</sup>	61 (78.2)	17 (21.8)	13 (16.7)	4 (5.1)	-( -)	4 (5.1)
何もしない <sup>1)2)</sup>	182 (85.0)	32 (15.0)	22 (10.3)	10 (4.7)	6 (2.8)	4 (1.9)
その他 <sup>1)2)</sup>	139 (86.3)	22 (13.7)	15 ( 9.3)	7 (4.4)	4 (2.5)	3 (1.9)

注 1) 非喫煙 v.s. 喫煙経験, p = 0.001

2) 非喫煙 v.s. 前喫煙 v.s. 現在喫煙, p = 0.001

表7 両親の授業参観の出席と現在の喫煙状況

(単位 名, ( )内%)

	非喫煙	喫煙経験				
		総数	前喫煙	現在喫煙		
				総数	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生 (n = 2,413)						
いつも来る <sup>1)</sup>	1 695 (96.7)	58 ( 3.3)	54 ( 3.1)	4 (0.2)	4 (0.2)	-( -)
時々来ない <sup>1)</sup>	435 (94.8)	24 ( 5.2)	22 ( 4.8)	2 (0.4)	1 (0.2)	1 (0.2)
来ないこと多い <sup>1)</sup>	133 (89.9)	15 (10.1)	14 ( 9.5)	1 (0.7)	1 (0.7)	-( -)
来ない <sup>1)</sup>	26 (89.7)	3 (10.3)	3 (10.3)	-( -)	-( -)	-( -)
中学生 (n = 2,307)						
いつも来る <sup>1)2)</sup>	1 119 (92.9)	86 ( 7.1)	64 ( 5.3)	22 (1.8)	15 (1.2)	7 (0.6)
時々来ない <sup>1)2)</sup>	602 (90.8)	61 ( 9.2)	54 ( 8.1)	7 (1.1)	5 (0.8)	2 (0.3)
来ないこと多い <sup>1)2)</sup>	280 (84.6)	51 (15.4)	31 ( 9.4)	20 (6.0)	8 (2.4)	12 (3.6)
来ない <sup>1)2)</sup>	67 (81.7)	15 (18.3)	9 (11.0)	6 (7.4)	3 (3.7)	3 (3.7)

注 1) 非喫煙 v.s. 喫煙経験, p = 0.001

2) 非喫煙 v.s. 前喫煙 v.s. 現在喫煙, p = 0.001

表8 子ども部屋の有無と現在の喫煙状況

(単位 名, ( )内%)

	非喫煙	喫煙経験				
		総数	前喫煙	現在喫煙		
				総数	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生 (n = 2,413)						
なし <sup>1)</sup>	429 (94.9)	23 ( 5.1)	23 (5.1)	-( -)	-( -)	-( -)
共有 <sup>1)</sup>	912 (96.6)	32 ( 3.4)	29 (3.1)	3 (0.3)	3 (0.3)	-( -)
個室 <sup>1)</sup>	927 (95.7)	42 ( 4.3)	38 (3.9)	4 (0.4)	3 (0.3)	1 (0.1)
中学生 (n = 2,307)						
なし <sup>2)</sup>	153 (90.0)	17 (10.0)	13 (7.6)	4 (2.4)	2 (1.2)	2 (1.2)
共有 <sup>2)</sup>	458 (93.5)	32 ( 6.5)	27 (5.5)	5 (1.0)	1 (0.2)	4 (0.8)
個室 <sup>2)</sup>	1 447 (89.9)	163 (10.1)	118 (7.3)	45 (2.8)	28 (1.7)	17 (1.1)

注 1) 非喫煙 v.s. 喫煙経験, 有意差なし (p = 0.70)

2) 非喫煙 v.s. 喫煙経験, 有意差なし (p = 0.25)

子ども部屋の施錠について、小学生男子で鍵は「かからない」と回答した者の割合は87.1%、かかるが「かけたことない」4.9%、「時々かける」5.9%、自分が「留守時にかける」1.3%、「常にかける」0.8%、同様に、小学生女子は、それぞれ86.2%、4.5%、8.0%、0.7%、0.6%であった。中学生男子で「かからない」と回答した者の割合は86.2%、「かけたことない」5.6%、「時々かける」6.5%、「留守時にかける」1.0%、「常にかける」0.8%、同様に、中学生女子は、それぞれ88.6%、4.3%、5.7%、0.5%、1.0%であった。

表9に子ども部屋の施錠状況と現在の喫煙状況との関係を示す。

考 察

調査方法について、本調査では、学校の教室を実施場所とした。この方法は、著者が述べたように<sup>5)</sup>、学校保健分野で1990年代から多数の研究者が用いている方法である。最小限のバイアスを期待する場合、クラスメートに回答を見られる可能性はあるが、調査方法に記載したように、回答に際して学校の影響が可能な限り排除され、かつ、個別回答の秘密性が保持されるよう実施要領を定めた上で、そ

の場で回答させて回収したことから妥当な方法であると考えられる。

次に、調査内容について、本調査の独創的なところは、小・中学生の喫煙行動だけでなく、子どもの喫煙に対する両親（保護者）の指導内容や家庭内での一般的なしつけ方、ならびに学校行事としての授業参観への出席状況と、子ども部屋の状況を問うたことである。これにより、小・中学生の喫煙行動と、両親による養育

状況をはじめとした家庭環境との関連を明らかにすることができたと思われる。

各々の結果について、第1に、未成年、特に、小・中学生の喫煙行動は本人周囲の関係者から深く影響を受けていると考えられることから、家族や友人からの喫煙勧誘と喫煙行動（習慣性）との関係をみたところ、小学生の場合は、実数としては父母からの勧誘が多かったが、姉妹と友人から勧誘された者のうちで40%前後が喫煙を経験しており、喫煙の習慣性に関する影響について二者を比較すると、友人から勧誘された者の多くは前喫煙となっていたが、姉妹から勧誘された者は現在喫煙者が比較的多かった。中学生の場合は、実数としては友人からの勧誘が圧倒的に多く、喫煙の習慣性に関して父母、姉妹、友人の影響はほぼ同等であったが、あえて述べれば、父母で喫煙経験と前喫煙が若干多く、友人で現在喫煙が若干多かったことから、父母は喫煙の開始に影響があり、友人は喫煙の継続に影響を及ぼしていることが推測される（表3）。これらから、小学生の現在喫煙には姉妹の影響が大きく、中学生のそれには父母、姉妹、友人の影響が大きく、家族等の周囲の関係者を含めて小学生から中学生、高校生までの一環した防煙教育の実施が必要と考えられる。なお、設問選択肢の「その他」を回答した者が、小学生と中学生ともに最も多かったことから、

表9 子ども部屋の施設状況と現在の喫煙状況

(単位 名、( )内%)

	非喫煙	喫煙経験				
		総数	前喫煙	現在喫煙		
				総数	時々喫煙	習慣的喫煙
小学生 (n = 1,913)						
かからない <sup>1)</sup>	1 560(96.3)	60( 3.7)	56( 3.5)	4(0.2)	4(0.2)	-( -)
かけたことない <sup>1)</sup>	84(96.6)	3( 3.4)	3( 3.4)	-( -)	-( -)	-( -)
かけることがある <sup>1)</sup>	151(93.8)	10( 6.2)	8( 5.0)	2(1.2)	2(1.2)	-( -)
時々かける	123(94.6)	7( 5.4)	6( 4.6)	1(0.8)	1(0.8)	-( -)
留守時にかける	17(94.4)	1( 5.6)	1( 5.6)	-( -)	-( -)	-( -)
常にかける	11(84.6)	2(15.4)	1( 7.7)	1(7.7)	1(7.7)	-( -)
中学生 (n = 2,107)						
かからない <sup>2)</sup>	1 650(90.9)	166( 9.1)	126( 6.9)	40(2.2)	23(1.3)	17(0.9)
かけたことない <sup>2)</sup>	92(89.3)	11(10.7)	8( 7.8)	3(2.9)	2(1.9)	1(1.0)
かけることがある <sup>2)</sup>	144(90.0)	16(10.0)	10( 6.3)	6(3.8)	3(1.9)	3(1.9)
時々かける	114(89.8)	13(10.2)	8( 6.3)	5(4.0)	2(1.6)	3(2.4)
留守時にかける	15(100.0)	-( -)	-( -)	-( -)	-( -)	-( -)
常にかける	15(83.3)	3(16.7)	2(11.1)	1(5.6)	1(5.6)	-( -)

注 1) 非喫煙 v.s. 喫煙経験, 有意差なし (p = 0.65)  
 2) 非喫煙 v.s. 喫煙経験, 有意差なし (p = 0.99)

「その他」を回答する者が少なくなるよう、「おじ・おば」「いとこ」「その他の血縁者」などの血縁者を選択肢に追加する必要があるのではないかと考えられる。また、選択肢の「友人」は、回答内容を確定させて記入漏れを防止するとともに、ロール・プレイ（役割演技）など防煙教育の内容を決める上でも、「下級生」「同級生」「先輩」に分ける方が良いかもしれない。

次に、同居家族の禁煙者と喫煙行動との関連をみたところ、一般に喫煙率は全年齢層で男性が女性を圧倒的に上回っていることから、同居家族の禁煙者は、当然に実数では祖父と父が圧倒して多かったが、小学生の場合、「その他」を除いてすべてが前喫煙であり、同居家族の禁煙者と喫煙行動との関連の差異はなかった。中学生の場合、例数が少ないので断定できないが、「祖父」「父」の禁煙で喫煙経験と前喫煙と現在喫煙が比較的低かった（表4）。このことから、小・中学生の防煙教育をする際には、家庭教育支援を「学習を希望する親の支援」から「すべての親を対象とした支援」へ転換する<sup>6)</sup>ことも踏まえて、教育対象者として小・中学生本人だけでなく祖父と父を、直接的あるいは間接的のいずれであっても、含めて進めていく必要があると考える。

さらに、喫煙に対する両親のしつけ方と喫煙

行動との関係のみたところ、中学生では統計上有意な関係が認められ、「家の中で吸いなさい」と喫煙を是認された者の全例が現在喫煙者であり、「何も言わない」と喫煙を放任された者の現在喫煙者が比較的多く、二者ともに習慣性の高い者が多かったこと（表5）から、小・中学生の喫煙に対する両親の是認と放任が、小・中学生の喫煙の習慣化に関係していることが示唆された。児童生徒の問題行動等の原因・背景として家庭における幼少時からのしつけは様々な要因の1つに挙げられている<sup>9)</sup>とともに、喫煙は薬物乱用の端緒といわれており、子どもの喫煙を「知らない」親が小学生で20%前後、中学生で40%前後いたことも踏まえて、防煙に関して両親に助言指導することは重要であると考えられる。喫煙はニコチン依存症という病気であり、喫煙することは意識的であれ無意識であれ、自分自身と周囲の者の健康を害するものであって、喫煙する者の健康観、倫理観、自己肯定感と関係していると考えられることから、今後は、本研究事業の結果を進展させて、喫煙に対する両親のしつけ方と小・中学生の倫理観、健康観、自己肯定感との関係について明らかにしていきたい。

次に、小・中学生に対する両親の一般的なしつけ方と喫煙行動との関係のみたところ、小学生において喫煙経験、中学生において喫煙経験・現在喫煙に関して統計上に有意な関係が認められ、「叱る」「怒鳴る」「殴る」の順で喫煙経験、前喫煙、現在喫煙ともに多くなり、喫煙の習慣性の高くなる傾向が示唆された。また、小学生、中学生ともに、「何もしない」は「怒鳴る」と同程度かそれ以上に喫煙経験、現在喫煙が多かった（表6）。小・中学生が誤った行為をしたときに、道理をもって叱らずに、怒鳴ったり殴ったりして従わせようとすることは、本人の自己肯定感を傷つけるとともに自己効力感を損なうことが容易に推測され、「おどし」の健康教育は効果がないことから、防煙教育にとって益のないことと考えられる。

近年、小・中学生の関連する死傷事件が発生するたびに、学校に対する非難の声や意見が報

道機関を中心に上るが、本研究の結果は、小・中学生の行動には学校教育だけでなく、普段の家庭教育も負うところが大きいことを示唆している。文部科学白書において、家庭は教育の原点であり、子どもが基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的な倫理観、自立心や自制心、社会的マナーなどを身に付ける上で重要な役割を果たす<sup>6)</sup>と記載されている。また、同白書に、小学校・中学校の9年間を通じて提供される義務教育は、人格形成の基礎を担うものである<sup>9)</sup>とも記載されていることから、教育の原点といわれる家庭での教育が学校教育とともに子どもの人格形成に重要であることは、改めて認識すべき点であると思われる。今後は、喫煙に対する両親のしつけ方と同様に、本研究事業の結果を進展させて、小・中学生に対する両親の一般的なしつけ方と小・中学生の倫理観、健康観、自己肯定感との関係について明らかにしていきたい。

次に、両親の学校教育への関心度、ひいては子ども自身への関心度を表すものとして、両親に参加が期待されている学校行事の中から、授業参観の出席頻度と喫煙行動との関係のみたところ、小学生において喫煙経験、中学生において喫煙経験・現在喫煙に関して統計上に有意な関係が認められ、出席頻度が「いつも来る」から「来ない」へと少なくなるにしたがって、喫煙経験および現在喫煙が多くなり、喫煙の習慣性の高い者が多かった（表7）。このことから、学校教育や子どもへの関心の低さは、しつけ方とは別の側面で喫煙行動と喫煙の習慣性に関係していることが明らかとなった。したがって、小・中学生の防煙のためには、両親が授業参観などの学校行事に参加することにより、小・中学生本人への関心の深さを示す必要があると考えられる。しかし、公の経済指標や評価が上向いているとはいえ、現実として、ワーキング・プアやインターネット・カフェ寝泊りが社会的問題として表面化し、景気回復に国民の実感が伴わず、業種によっては業績の思わしくない産業があるといわれる中で、両親が仕事

を休んで学校行事に参加することは困難な場合が多いとも考えられる。近年、小・中学校の運動会は両親の参加しやすさに配慮してか、土曜日に開催されることが多くなってきたが、授業参観などの平日の学校行事についても、子育てを地域や企業を含めた社会全体で支えていくより良い環境や機運をつくっていく<sup>6)</sup>という考えの下に、小・中学生を養育する親が容易に遠慮することなく参加できるように、雇用者および職場の上司・同僚の配慮が望まれるところである。両親の学校教育への関心の高さ、子どもへの関心の高さは、本人の自己肯定感を高めるとともに自己効力感を高めると考えられることから、今後は、喫煙に対するしつけ方、一般的なしつけ方と同様に、両親の学校教育への関心度、子ども自身への関心度と小・中学生の倫理観、健康観、自己肯定感との関係について明らかにしていきたい。

次に、小・中学生の典型的な初喫煙の場は複数の友人が同室した友人の部屋であるといわれることから、子ども部屋の有無と喫煙行動との関係をみてみると、統計上は有意ではないが、小・中学生ともに、子ども部屋がないか個室の方が、共有より喫煙経験、前喫煙、現在喫煙が多かった(表8)。これは、喫煙行動は同胞からの喫煙勧誘と関係があるといっても、大多数の同胞は非喫煙者または前喫煙者であることが推定されることから、子ども部屋を共有している方が、喫煙行動に抑制的に作用したのではないかと考えられる。なお、子ども部屋の施錠状況と喫煙行動との関連では、統計上に有意な関係は認められなかった(表9)。両親からみれば子ども部屋が施錠されていることは不自然であり、親権を有する者として監護上に認めがたいことであることから、大多数の子ども部屋は鍵がかからない構造になっていることは、容易に予測できる。おそらく、子ども部屋で喫煙するのは両親(同室の同胞も含めて)の留守中に限ったことであり、子ども部屋の施錠の可否に影響されないものと思われる。

最近の国内の状況を見ると、2003(平成15)年度から、たばこ対策緊急特別促進事業により、

都道府県に対して、子どもへの影響の大きい父母等や未成年に対する喫煙防止対策、受動喫煙防止対策が遅れている娯楽施設等に対する分煙徹底に重点を置いた施策への支援が始まり、これまでより一歩進んだタバコ対策が推進されつつあり、また、いくつかの条件設定はあるもののニコチン補充療法が保険適応となり、喫煙は薬物依存症という病気であるという認識の下に医療体制が整備された。これらの国内の動きを考えると、家庭・学校・地域、保護者・学校関係者・事業者が一体となって、未成年、特に小・中学生の防煙対策に連携協働することは、タバコ対策を効果的に推進する上で最も重要なことの1つであり、これにより小・中学生の防煙を通じて未成年の喫煙の解消が達成されれば、最近話題となっているメタボリック・シンドローム(内臓脂肪症候群)の次世代の予防と改善の一助になると考えられる。本研究がこれらに少しでも寄与するところがあれば幸いである。

#### 謝辞

本研究事業の趣旨へのご理解と、全面的な支援を賜った静岡県教育委員会、教育長をはじめとするA保健所管内市町教育委員会、各地区校長会役員、調査実施校の教職員各位、そして、何より、調査にお答えいただいた小学生、中学生の皆さんに、厚く御礼を申し上げます。

最後に、本研究は、平成14年度厚生労働科学研究費補助金・健康科学総合研究事業「総合的な地域保健サービスの提供体制に関する研究」の分担研究「児童・生徒の防煙対策の焦点を明らかにするモデル事業」の結果の一部をまとめたもので、同事業報告書は、すべての都道府県・政令市・中核市・特別区の各保健所・教育委員会に送付してあることを付記する。また、本稿の一部に関連した内容は、第60回日本公衆衛生学会総会で発表された。

#### 文 献

- 1) 藤田信. 児童・生徒の防煙対策の焦点を明らかにするモデル事業(第1報). 日本公衆衛生雑誌 2001; 48(10)特別付録: 239.



- 2) 藤田信．児童・生徒の防煙対策の焦点を明らかにするモデル事業（第2報）．日本公衆衛生雑誌 2002；49（10）特別付録：221．
- 3) 藤田信．児童・生徒の防煙対策の焦点を明らかにするモデル事業（第3報）．日本公衆衛生雑誌 2003；50（10）特別付録：215．
- 4) 藤田信．一保健所管内の小・中学生を対象とした喫煙行動と関連要因に関する大規模調査研究．厚生指標 2005；52（2）：14-22．
- 5) 藤田信．一保健所管内の小・中学生を対象とした喫煙行動と関連要因に関する大規模調査研究（第2報）- 小・中学生を対象とする禁煙外来のあり方について - ．厚生指標 2006；53（11）：25-33．
- 6) 文部科学省生涯学習政策局政策課．平成17年度文部科学白書，第1部第1章第4節・第2章第1節・第4節．